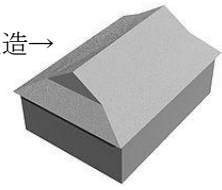




里山めぐり③「お宮さん（天津彦根神社）」

入母屋造→



～古木が生い茂る鎮守の森～

地元の人たちは「お宮さん」と呼んでいます。正式には「天津彦根神社」といい、旧名を「八王子宮」といいます。八王子とは、スサノオとアマテラスの8人の子どもたちのことで、その中の一人が天津彦根です。創立年月は不詳ですが、現在の建物の建築年代は「八王子宮」と拝殿入口に掲げられた額の裏にある銘から享和年間(1801～04)と思われます。本殿は、銅葺王子造、拝殿は瓦葺入母屋造、それに幅5メートルの奥行き3メートルの回廊が付随しています。

参道途中の7基の石灯籠のうち、延宝6年(1678)のものが一番古いのですが、この灯籠の年記の下部に「下藍那」と刻まれています。藍那は、昔「相野」「藍野」と呼ばれていました。寛文元年(1661)の記録にも「藍野村」と記載されており、

「藍那」という地名は、この石灯籠の表記が最も古いのです。従って、延宝年間(1673～81)頃より現在のように「藍那」と呼ばれるようになったのではないかと思います。

また、この境内には、農村歌舞伎舞台があります。明治初年に造られた間口7.9メートル、



奥行5メートルの入母屋茅葺の舞台です。当時は地芝居が盛んであったようで、一時は藍那地区に同時に3つの歌舞伎舞台があったようです。現在の藍那駅東側にあった巖島神社、下ノ町の釈迦堂の舞台です。加えて小河地区にも大歳神社舞台があり、藍那校区の人々の芝居や文化に対する認識の高さを感じさせます。